

2018年1月4日

## 東急グループ代表・東京急行電鉄(株)取締役社長 野本弘文 年頭あいさつ【要旨】

東急グループ

### 1. 東急グループ代表 野本弘文 年頭あいさつ（東急グループ各社トップに対する年頭あいさつ）

(1) 日 時 2018年1月4日(木) 9時10分

(2) 要 旨

グループ各社で年末年始に大きな事故もなく、無事に新年を迎えられたことを喜びたいと思います。

今年も安定政権のもと、オリンピックに向かって、国内経済はゆっくりと成長に向かうものと予想します。

グループに関連する分野では、都内ビジネスエリアのビル市況は順調で、オフィス空室率は低下し、賃料も上昇基調にあるが、マンションは頭打ちになりつつあることを考慮した展開が必要です。訪日外国人客数は増加しているものの、日本人の人口減少と消費行動の変化などにより、リテール分野は一層厳しくなるものと思います。お客さまにとっての価値を、いかに提供するかを常に考えてください。

昨年は、田園都市線での度重なる運行支障で、お客さまにご迷惑をお掛けしたことを、大いに反省しています。昨年末から同線内での緊急総点検を行うなど、再発防止に全力を挙げていますが、一連の対応の反省点を、是非、グループ各社でも生かしてください。

2018年度は、東急電鉄にとって新中期経営計画の初年度、東急不動産ホールディングスにとっては2年目に当たりますが、いずれも2020年のオリンピックイヤーを最終年度としています。昨年の渋谷キャストに続き、今秋には「渋谷ストリーム」が開業し、2019年には「南平台プロジェクト」、「道玄坂一丁目駅前地区プロジェクト」、「渋谷スクランブルスクエア東棟」が次々に竣工・開業します。これからの3カ年は、新しい渋谷を作る上での大事な期間です。「日本一訪れたい街」、「エンタテインメントシティ SHIBUYA」の実現に向け、安全を最優先しながら、工程管理をしっかりと行ってください。

渋谷以外でも、この3カ年には、「ドレッセ WISE たまプラーザ」や十日市場の大規模住宅プロジェクト、20ha超の南町田の大規模再開発事業が完成します。

最近、歴史のある名門企業の不祥事を耳にする機会が多くなりました。社員数が増え、組織が大きくなり、業務個々の意味を自分で考えなくなる、いわゆる「大企業病」について、東急グループにとっても他人事ではありません。各社の長の立場にある皆さんには、「当事者意識」をしっかりと持ち、「何のために」、「何故」、「もし」を常に自分自身に問いかけてください。

2017年度も最終コーナーを回りましたが、コンプライアンス経営を常に意識し、事故や不祥事を起こさぬよう、手綱をしっかり握ってゴールしてください。

2018年は、東急グループのルーツを「街づくり」とすると、ちょうど100周年にあたります。住まう人をはじめ、街で活躍する人々の舞台を創り続けてきたことで、「街づくりの東急」のブランドを確立し、最近では海外からノウハウ提供を要望されるまでに至りました。

今後もIT化の進展に伴い、世の中の変化は激しさを増しますが、東急グループの持つさまざまな「顧客接点」、「ネットワーク」、「(事業の)組み合わせ」を生かし、「ひとつの東急」として、世の中から必要とされる強い企業集団の実現を目指していきましょう。

## 2. 東京急行電鉄(株)取締役社長 野本弘文 年頭あいさつ (東急電鉄社員に対する年頭メッセージ)

(1)日 時 2018年1月4日(木) 10時10分

### (2)要 旨

鉄道をはじめ、各事業の第一線で勤務している現場の皆さんが、年末年始も変わらず「安全」の確保に取り組んだおかげで、責任事故もなく、こうして新年を迎えることができたことを感謝したいと思います。

公共交通事業をはじめ、お客さまの生活を支える事業を営む者として、「安全の確保」は最大かつ最重要の責務です。また安全に加えて「快適さの追求」も大事であり、お客さまの東急ブランドに寄せる信頼の源泉です。

残念なことに、去年は、田園都市線で当社起因による輸送障害が多発し、多くのお客さまに大変ご迷惑をお掛けするとともに、信頼を傷つけることになりました。一連の事象を重く受け止め、緊急安全総点検の実施や事故発生後の初動体制の強化などの取り組みを始めています。改めて、「安全の確保」の大切さを認識し、一人ひとりが当事者意識を持って、事故再発防止や万が一発生した場合の影響の最小化に努めてください。

現行の中期3か年経営計画「STEP TO THE NEXT STAGE」の最終年となる2017年度は、皆さんの努力により、営業利益、純利益とも、当初計画を大幅に上回る見通しです。また、2018年度から始まる次期経営計画はホップ、ステップ、ジャンプの「ジャンプ」期間と位置付けており、付加価値を創造し続けるために、安全への取り組み、既存事業の着実な進捗と生産性向上、新規領域への積極的な挑戦を行ってください。

鉄道事業では、ホームドアの設置など、安全投資の推進による運転支障の未然防止の強化、田園都市線の混雑率緩和などのハード・ソフト両面からの施策を、スピード感を持って進めてください。

不動産事業では、去年は「渋谷キャスト」が満室稼働で開業し、「渋谷ストリーム」のテナントも全て決定しました。本年は「渋谷スクランブルスクエア」、南町田の20haを超える大規模再開発事業のリーシングなどもしっかりと行い、次期経営計画に繋げてください。

生活サービス事業では、昨年結成されたコネクティッドホームアライアンスなどを活用した新しい家ナカサービスの創出、グループの既存事業と組み合わせた利便性向上により、一層の顧客基盤の拡大に繋げてください。

国際事業では、ベトナム、タイ、オーストラリアでの既存事業を着実に推進させるとともに、新たな成長分野への挑戦もしっかり行ってください。

先に触れたとおり、2018年は新たな中期経営計画が始まる年であり、これからの3年間は、東急グループにとっては、次の50年100年に向かってジャンプする大事な3カ年となります。渋谷、たまプラーザ、南町田などの沿線の街づくりや十日市場などの開発が大きく進捗する中、それぞれの職場で、目標、目的を正しく認識し、安全・安心やコンプライアンスなどを常に意識して業務を進め、当社全体の成長を底上げするよう、全社一丸となって取り組んでいきましょう。

以 上